

「宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」について

◎ 趣旨

本市における 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、本市全体で長期的なビジョンを共有し、市民・事業者・行政が一丸となって脱炭素化に取り組むために策定する「(仮称) 宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」の全体構成について協議するもの

1 全体構成について (別紙 1 参照)

脱炭素社会構築の主役となる市民・事業者が、本市におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取組に対する理解と行動変容が促進されるよう、カーボンニュートラルの必要性や、目指すまちの姿を分かりやすく示すなど、内容に配慮した計画とする。

2 「カーボンニュートラル実現に向けた課題と方向性」(別紙 1 の 6) について

※ 今後、「7 基本方針」等の検討を進めるに当たり、特に御意見を伺いたい部分

【カーボンニュートラル実現に向けた課題(・)と方向性(>)]

《地域資源を活かし、育みながらの社会経済システムの変革》

- ・ 都市・地域構造や社会経済システムは二酸化炭素排出に影響を与え続けることから、都市のコンパクト化と公共交通網の再構築、産業構造や経済社会の変革などを行いながら、脱炭素社会にふさわしい社会経済システムを構築していく必要がある。
- 本市では、環境負荷の少ない都市構造であるネットワーク型コンパクトシティ(NCC)の構築を推進するとともに、ICT等の先進技術を活用し、社会課題の解決や新たな事業の創出する「スマートシティ」の構築に官民協働で取り組んでおり、「ひと」「もの」「まち」を大切にする本市独自の「もったいない運動」を市民運動として展開している。さらには、産学官の豊富な人材、農業・商業・工業のバランスの取れた高い産業競争力など、脱炭素に資する地域資源を培ってきた。これらの地域資源を活かし、育みながら、効果的・効率的に社会経済システムの変革に取り組んでいく。

《脱炭素型ライフスタイルへの変革と一人ひとりの積極的・主体的な行動実践》

- ・ 温室効果ガスは、家庭における家電製品の使用や自動車の利用、製品製造や事業所における設備・機器の使用、自動車の利用など、日常生活や事業活動のあらゆる場面から排出されており、一人ひとりの意識改革・行動変容が必要である。
- 一人ひとりが地球温暖化問題の当事者であるとの認識を持ち、意識を改革し、脱炭素型ライフスタイルへの変革に取り組み、省エネの徹底等の環境配慮行動を積極的・主体的に実践していく。

《地域ポテンシャルを活かした再生可能エネルギーの積極的な導入・利用》

- ・ 日常生活・経済活動で使用する7割超は、石油・石炭・天然ガス等の化石燃料を使用した火力発電でつくられており、カーボンニュートラルの実現に当たっては、電力の脱炭素化が不可欠である。
- 本市は、特に冬季の日照時間が長いなど、太陽光発電の導入に適した地域特性を有しており、固定価格買取制度開始以降の住宅用太陽光発電の新規導入件数は、中核市第1

位となっている。こうした地域ポテンシャルを活かし、市民・事業者が太陽光発電等の再生可能エネルギーを積極的につくり、利用することや、水素エネルギー等の新たなエネルギーを活用していく。

3 スケジュール

- | | | |
|------|-----|---------------------------|
| 令和4年 | 1月～ | 環境審議会における意見聴取 |
| | 8月 | ロードマップ（素案）作成，パブリックコメントの実施 |
| | 9月 | ロードマップ策定・公表 |